



モア通信 No.05

2011年12月18日

インターネットで外国人福祉委員養成講座が受講できます

<http://www.kyoto-more.net/hosyu.htm>

①養成講座での講義内容をこのページでの mp3 形式の音声ファイルで聴講してください。

②講義を聴講した後、**【WEB 補習レポート】**を提出してください。受講された講義の感想などを書きの上、FAX または E-mail で送付してください。

③京都モアネット事務局で受講状況を確認し、すべての受講が確認されれば、外国人福祉員として登録。外国人福祉員登録証をご送付いたします。

第1回 京都モアネットについて～在日外国人に対する福祉のあり方とモアの設立～

第2回 在日外国人の社会保障の歴史、今後の趨勢と課題

第3回 京都モアネットの相談事例～外国人福祉員の必要性和活動内容について～

第4回 モアネットの目指すもの～インクルーシブコミュニティと多文化共生社会～

第5回 高齢者に対する理解～高齢者の尊厳と生きがい～

第6回 障害者に対する生活支援の理解

第7回 相談支援活動の心構えについて

第8回 今後の多文化共生社会のあり方と求められるもの

「かかりつけ委員」としての外国人福祉委員を目指して

京都モアネット共同代表 ハク ソ キョウ 朴 錫 勇

この度の東日本大震災により被災された方々に改めてお見舞いを申し上げますと共に、被災地の日も早い復興をお祈りします。私自身16年前に阪神淡路大震災を経験した者として(当時西宮市在住)、今後も微力ではありますが被災地復興のため支援していきたいと思います。

さて京都モアネットは2006年に活動を開始し5年が経過しました。この間モアネットでは、福祉サービスを利用できない、地域で孤立しがちな外国人高齢者、障害者を支援するため、京都市の助成事業としてたくさんの外国人福祉委員を育成し、その方々のご協力のもと地域での見守りや傾聴などの活動をしてまいりました。外国人福祉委員は他の地域にはない貴重な取り組みであり今後益々発展させるべきことであります。

私は街の開業医として普段は地域医療に従事しておりますが、最近では、かかりつけ医という用語で呼ばれることが増えてきました。かかりつけ医は数年前から厚生労働省が勧めることもあり新聞や雑誌等によく目にします。そもそも、かかりつけ医とは何かと言いますと、その言葉の通り、普段から自分がかかりつけている医師または診療所という意味で、その患者さんの健康状態や病気のこと、また家族構成や職業等を普段からある程度知っており、困った時に身近にいて適切にアドバイスしてくれる医師を指します。

かかりつけ医の役割とわれわれモアネットが目指す外国人福祉委員の役割は共通点が多いように思います。例えば高齢で独居の患者さんに対しては、服薬確認や受診日確認、場合によっては訪問診療を行い、ケアマネジャーや訪問看護師と連携を取りフォローしていきます。また、病気がより重篤になると入院できる総合病院への橋渡し役になるのです。しかしこれは、あくまでもかかりつけ医のいる方の場合であり、かかりつけ医を持たないような方、特に外国人や障害のある方は地域社会での見守りが必要であり、ますます福祉委員の存在が重要と言えるのではないのでしょうか。

最近よくテレビや新聞で生活保護受給者の孤独死が話題に上ります。持病のある方はもちろんですが、特に大きな持病がなくとも地域社会から孤立することにより、気力、活動力が低下し次第に食事摂取もできなくなり、誰の支援も受けられないまま一人ひっそり亡くなっていくという悲劇。同じ地域で生活する者として、これほど寂しく思うことはありません。

私たちモアネットの外国人福祉委員の活動にはまだまだ問題点がありますが、上記のようなことが起こらぬよう、地域で少しでも役立てる存在になればと思います。かかりつけ医のような外国人福祉委員、「かかりつけ委員」を目指して。



主催者挨拶をする京都外国人高齢者・障がい者生活支援ネットワーク「モア」の朴錫勇共同代表



調査結果概要について報告する
小澤亘立命館大学教授

各調査回答者の文化的背景

	日本人	コリアン	中国帰国者等	合計
陶化	134	45	0	179
山王	194	31	0	225
小栗栖	99	1	20	120
東九条コリアン		64		64
合計	427	141	20	588
%	72.6	24	3.4	

各調査回収率

	抽出対象	回収	%
陶化地区	300	179	59.7
山王地区	300	225	75.0
小栗栖地区	162	120	74.1
東九条コリアン	100	64	64.0

第5回京都「モア」ネット総会とトークセッション

「東九条高齢者調査が問いかけるもの」開催

2011年8月6日京都キャンパスプラザにおいて、京都外国人高齢者・障がい者生活支援ネットワーク「モア」の第5回総会が開催されました。まず、京都「モア」ネットの朴錫勇共同代表は主催者挨拶でこれまでの活動を振り返り、これまでは相談窓口やコリアンコミュニティを通じての支援活動を行ってきたが、今回の調査を通じて地域の自治会・民生児童委員・老人福祉委員・福祉機関・NGO・大学関係者との連携協力に取り組む可能性が見えてきた。インクルーシブ(排除せず包摂すること)な地域社会の実現という理念を共有することで、地域コミュニティとの関係が希薄で、孤立傾向にある外国人高齢者にも地域ぐるみで支援を行っていくことが可能になる。外国人福祉委員の役割が地域福祉ネットワークにしっかりと位置付けられるように、東九条をモデルにして京都市全域に広げてゆけるような活動をしてゆきたいと述べられました。

引き続き、2010年度活動報告・会計報告・監査報告の審議の後、2011年度活動計画案・収支予算案が検討され、承認されました。

活動方針案では①生活支援及び訪問活動について②外国人福祉委員養成講座について③ネットワーク強化について④外国人生活支援に対する啓発事業について⑤行政や医療、福祉機関との連携協働体制強化について⑥外国人生活支援に関する調査活動などが提議されました。

総会に引き続いて、トークセッション「東九条高齢者調査が問いかけるもの」が開催されました。この調査は京都モアネットと大学の研究者が「外国人高齢者障害者生活支援研究会」を構成し、文部科学省の研究費補助を得て行っているもので、2011年2-3月に東九条地域と小栗栖地域に住む高齢者(70歳以上)を対象に調査を行い、5月に東九条地区コリアン高齢者を対象に特定して行った調査の集計結果の中間発表としての性格をもつものです。

立命館大学小澤亘教授と大阪人間科学大学石川久仁子准教授のお二人より調査の概要と現時点までの分析による特徴的な傾向についての報告がありました。(報告内容に関しては次ページに簡単にまとめておりますのでご覧ください。)今回、自治会・地域福祉関係者・NGO・民族団体・大学関係者など、従来なかった調査協力体制で取り組むことができ、そのことが左記のような非常に高い回答率を得る結果となった。このような連携構築自体が研究活動の目的でもあり、今回、非常に大きな成果を得ることができたと述べていました。

報告の後、調査活動に参加した調査員のお二人から感想が述べられました。当日は、京都市長寿福祉課、地域福祉課、南区役所福祉部、南区社会福祉協議会からも参加があり、参加者からも熱心な討論がありました。

このような報告会は今後も開かれますので、興味のある方は次の機会を逃さずにご参加ください。この調査研究結果の報告書は2013年春ごろには出版される予定です。

●山王学区・陶化学区・小栗栖地域における高齢者の実態調査を終えて

石川久仁子

「高齢者が地域で安心して暮らせるまちづくり」

いま地域社会は少子高齢化するとともに多様な文化をもつ住民が増えています。これらの住民は見過ごすことのできない課題を抱え、コミュニティから孤立していることが予測されます。モアネットでは外国人福祉委員の活動を通じて、このような方々を支援してきました。しかし、その正確な実態、近隣住民とどのような関係を結んでいるのか、その生活実態が日本人高齢者とどのように異なるのかなど細かな点については必ずしもはっきりしていません。

そこで2011年3月から5月にかけて、京都外国人高齢者・障害者支援ネットワークモアと大学の研究グループが協力して陶化・山王・小栗栖地域でアンケート調査を実施しました。山王・陶化学区では70歳以上、小栗栖団地では65歳以上の高齢者に対して面接聞き取り調査を実施しました。あわせて584人の住民にご協力いただくことができました。回答率は山王調査で92.2%、陶化調査で66.5%、小栗栖調査で74.1%、5月の東九条調査（山王・陶化学区に暮らすコリアンのみ対象）で82.1%と全体的に非常に高い回答率となりました。これは各調査において住民と日々関係を結んでいる地域の民生委員、老人福祉員、自治会、民族団体による大きな協力があったことが背景にあります。以下、8月6日に総会とあわせて開催された報告会から簡単に調査結果の概要をご紹介します。

調査結果の概要

調査項目は健康状況、家族関係、近隣関係、福祉関係者との関係、福祉サービスなど幅広いものとなっていますが、この中で文化的背景が異なることにより差が出た項目もあればない項目もありました。

まず、健康状態について日本人は56.5%の回答者が健康と答えたのに対し、コリアンは34.3%、中国帰国者にはたった25%のみが健康と答えました。近隣関係については、日本人とコリアンは半数以上が隣近所の人々とお茶や食事に招きあったり、少なくとも会えば立ち話をするなどのコミュニケーションをとっていました。しかし、中国帰国者は25%にとどまり70%が挨拶のみの関係であることがわかりました。

地域の福祉関係者を知っているのかどうかについても日本人は民生委員については43%、老人福祉員については31.5%の人が知っているのに対し、コリアンは民生委員について32.6%、老人福祉員は19.1%、中国帰国者は

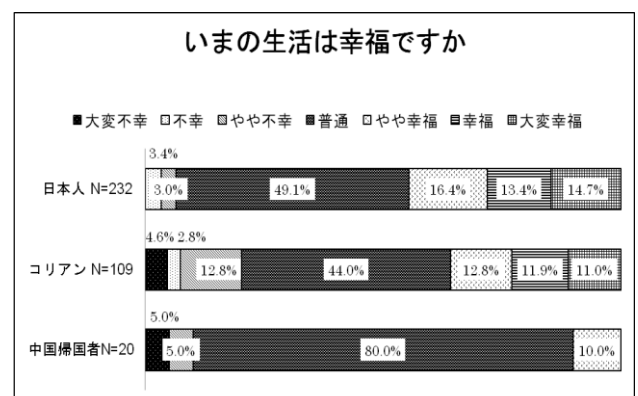
民生委員については20%、老人福祉員については20%と知っている割合が少ないことがわかりました。

いまの生活が幸福かどうかについては全体としては普通とした人が多いものの、コリアンは不幸という人と幸福とした人の両派に分かれ、中国帰国者はそもそも幸福とした人が1割しかいないという結果となりました。

高齢者の生活を支えるにはより活発な地域活動が必要で、高齢者自身のこれまでの地域活動への関わりやこれからの活動への参加が大きな意味をもちます。コリアン、中国帰国者ともに地域活動への実際の参加は日本人と大きな差はでませんでした。しかし、団体の世話役の経験はコリアン、中国帰国者ともに低調、これからの世話役への参加の意向についてはコリアンのみ低いという結果となっています。

文化的背景による相違をまとめると、コリアンは近隣関係や地域活動への参加は日本人と大きく変わらないが、世話役へは参加できていない。中国帰国者は近隣関係が薄く、健康ではないとする人が多く、いまの生活を幸福と思える人が少ないという結果でした。更に幸福度が何によって規定されるのかについて多変量解析をおこなうと興味深いことがわかりました。それは、健康状態や持ち家があることホームドクターがあること、孫が行き来していることが幸福度に影響を与えていると同時に、日本人でもコリアンでも老人福祉員を知っているかいないかが影響を与えていたのです。

以上は主に文化的背景の異なりによる分析ですが、文化的背景の違いだけでなく、陶化学区、山王学区、小栗栖団地という3つの地域による違いも回答に大きな影響を与えていることがわかりました。調査にご協力いただいた3つの地域においても調査報告会が開催され、それぞれの学区ごとの調査結果が関係者の皆さんに返されました。



高齢者中間報告より～「幸福度」について

調査をうけて～今後の動き

様々な地域で調査がおこなわれていますが、その結果は往々にして大学などの調査実施団体にとどまり、地域住民にとっては何の意味があるのかさっぱりわからないということが多いものです。しかし、この調査はその結果をうけて地域・大学・モアネットがどのような協力ができるのか探るという特徴があります。まとめていえば、地域が高齢化していくなかで、文化的背景が異なる住民同士、モアネットなどのボランティアグループと自治会など異なる立場の人や団体などがどう協働すれば多文化化する地域の高齢者を支えられるのかを考えることにこそこの調査の意味があります。

モアネットおよび大学の研究者グループでは、調査の中でサポートが必要であると判断された高齢者についてケーススタディをおこない、外国人福祉委員がどのような支援ができるか、また老人福祉員や民生委員、専門機関とどのような連携が考えられるのか検討していく予定です。

●「東九条お年寄りアンケート調査」に参加して

調査員 朴 よし子

今回の調査参加で感じ、継続して意識したいこと、箇条書きにしてみる。

行政サービス情報、提供の必要性は。高齢である事との関連。抱えている問題は、また問題の解決を望むのか。それにより不安を和らげ、安心できるのか。そして未来に希望を持てるのか。その事のために必要なこと。継続的な関わりは可能か。関わらないと見えてこない事と、コミュニケーションの必要性は。そのことのため調査は必要であるのか。

情報提供により、一つでも多く笑える生活を送ってもらいたいと考える。

このような極個人的な内容を含む調査は、言葉とともに情にも留意したい。アンケートの順序に随い答えて頂くが、話の中で前後する。その言葉の中にとっても貴重な情報が隠れていると考える。

この調査の必要性を鑑み、今後に期待したい。

応援してください、参加してください、会員を募集中です。

- 個人年会費 1,000円
- 団体年会費 5,000円
- ゆうちょ銀行口座 00990-4-314429

相談内容

福祉サービスの紹介指導	介護 保険	手続きなど受付相談	20
		サービス利用・内容について相談	12
		その他	18
	生活保護		18
	高齢者福祉		25
	障害者福祉		8
	その他の保健福祉サービス		10
	小計		111
	生活・生きがい等	生活相談	
生きがい相談(趣味活動)			85
心配事相談			82
精神相談			13
安否確認			131
言語・コミュニケーションの問題			73
民族文化・歴史背景をふまえた問題			56
その他			11
小計		579	
健康保持・	健康相談		25
	栄養食事関連相談		20
	病院受診・入退院 手配など		27
	医療通訳		20
	その他		6
	小計		98
関係機関との連絡調整	区役所	福祉事務所	39
		市民窓口等	10
		その他	1
	自治会(その他地域団体)		4
	民生委員/老人福祉員		2
	社会福祉協議会		11
	ケアマネジャー, ヘルパー等		43
	その他		0
	小計		110
緊急時対応	通報先	病院・診療所への連絡	4
		ケアマネなど関係者連絡	16
		消防車出動要請	0
		警察への通報	0
	急病の世話		10
	家事の世話など		17
	その他		0
	小計		47
合 計			945

●2010年度の活動(2010年4月～2011年3月)

2010年度 モアネット対応相談件数内訳

1. モアネットへの相談件数、外国人福祉委員の生活支援及び訪問活動

相談件数については、2010年度は165件でした。70名の外国人福祉委員がのべ945回の生活支援活動を行いました。前年度に比べ件数は減少していますが、地道な訪問および傾聴活動を中心に行い、関係機関と連携をとりながら行ってきました。

2. 外国人高齢者障害者の生活支援に関する調査

龍谷大学、立命館大学、大阪人間科学大学等と協力し、京都市のコリアン集住地区である東九条地域と中国帰国者の多住地域である小栗栖地域において、各自治会及び民生児童委員・老人福祉員の協力を得て、地域の70歳以上の全ての高齢者を対象に無作為抽出をし、生活実態調査を行いました。2011年3月に第1回調査(東九条山王学区・陶化学区と小栗栖地域)と、2011年5月に東九条地域の在日コリアンのみを対象にした第2回調査を行うにあたり、約1年をかけて準備を行いました。関係機関や外国人福祉委員へ調査の協力依頼、また調査項目・調査方法・調査対象・地域の協力機関への依頼方法などを検討してきました。

3. 外国人福祉委員の現任研修

1) 現任研修は随時行い、ヘルパーやケアマネジャー、その他研究者の講義や実技指導を受け、行いました。

2) 外国人福祉委員が調査活動に従事し、自らの役割を自覚し、生活問題把握力や社会資源活用力を身につけるよう活動を行いました。

4. 啓発事業として6月20日にシンポジウム「多文化共生プランの実現を目指して」を行いました。ここでは福祉と共生社会を研究する大学教授や外国人生活支援団体が出演し、京都モアネットの活動、および外国人高齢者・障害者生活支援の重要性を喚起する活動を行いました。

5. 他の外国人支援団体との連携

外国人支援NGO等が集う「きょうと外国人支援ネットワーク」の作成した多言語パンフレットの作成に協力し、幅広い対象を支援できる体制を整えることを目指し、ネットワークの強化に努めました。

6. 外国人福祉委員養成講座について

本年度は新規の外国人福祉委員養成講座を行わず、120名を越える登録者ができるだけ多く活動に参加できるシステムを構築することをテーマにしました。その一環として、研究調査活動をばねにした活動の活性化を図りましたが、まだ顕著な成果を生むに至らず、来年度事業へ継続して粘り強く取り組む必要があります。

月			合計
対象者	性別	男	55
		女	110
		合 計	165
		～19歳	0
		20歳～29歳	3
		30歳～39歳	5
		40歳～49歳	9
		50歳～59歳	18
		60歳～69歳	44
		70歳～79歳	45
		80歳～89歳	37
		90歳～	4
		合 計	165
	国籍	韓国・朝鮮	157
		中国	4
		アメリカ	1
		フィリピン	1
		タイ	1
		その他アジア	0
		イギリス	0
		ブラジル	0
		その他	1
		合 計	165
相談経路	本人		122
	家族		30
	民生委員・老人福祉員		4
	ケアマネジャー、ヘルパー		2
	福祉事務所等行政		2
	病院・医院		1
	その他		4
	合 計		165
対応方法	外国人福祉委員の訪問		142
	電話相談		18
	来所相談		4
	その他		1
	合 計		165



「実態調査」調査員への調査前説明会



調査を行った各地域へ報告会を行いました



京都モアネット役員

【顧問】

小澤亘(立命館大学教授)

ワンチョンイル

王清一(在日本大韓民国民団京都府地方本部団長)

キムハッホ

金学福(在日本朝鮮人総聯合会京都府本部委員)

田中宏(龍谷大学教授)

チョンフィスン

鄭禧淳(NPO 法人京都コリアン生活センターエルファ

理事長)

仲尾宏(京都造形芸術大学客員教授)

水野直樹(京都大学教授)

【共同代表】

加藤博史(龍谷大学教授)

キムシ'ュマン

金周萬(在日本大韓民国民団京都府地方本部福祉
事業推進委員会委員長)

クムキト

琴基都(在日本朝鮮人総聯合会京都府本部京都同
胞生活センター会長)

ハクソ'ギョン

朴錫勇(NPO 法人京都コリアン生活センターエルファ副理
事長・札の辻診療所副所長)

【運営委員】

キムスファン

金秀煥(朝鮮総聯京都府本部・京都同胞生活セン
ター事務局長)

キムヤンシ'ヤ

金洋子(NPO 法人京都コリアン生活センターエルファ
理事)

キムチ'ユメン

金春雄(韓国民団京都府本部事務局長)

ソンキ'ファ

宋基和(韓国民団京都府本部民族教育委員長)

リ'フィデ

李喜代(NPO 法人京都コリアン生活センターエルファ

理事)

リュウヨ'ンスン

柳詠舜(朝鮮総聯京都府本部権利福祉部)

加藤博史(兼任)

琴基都(兼任)

金周萬(兼任)

朴錫勇(兼任)

●外国人福祉委員活動で感じた事

裴順福(ペ スンボック)

京都外国人高齢者・障害者生活支援ネットワーク・モアにかか
わって今や高齢者・障害者支援の活動が我々の生活基盤の中
でなくてはならない大事な場所になっていると日々感じるこの頃で
す。

それは外国人福祉委員として高齢者のお宅を訪問しながら傾聴
すると考えさせられる事が沢山ありました。まず、外国人高齢者の
方々が国や地方の行政のシステムをあまり知らないし又、関わり
うとしない傾向があります。つまり他人に迷惑をかけるより身内で
解決する方が良いと考える高齢者が結構多いということでした。こ
れは在日コリアンとして自分の事は身内がしなければ誰もしてくれ
ないという意識が根強くあるからなんだと感じました。

ですがお話を伺う中で自分の身の上話やら子供の事、楽しみな
事、つらい事など、はじめは遠慮しながら少しずつお話をされた後
は晴々とした表情に変わって行く姿を見て人は皆一人で居ると寂
しいが話を聞いてくれる人がたまに尋ねてきてくれたりお手伝いを
してくれたら嬉しい事なんだと確信するこの頃です。これは私達が
積極的に高齢者に接触する日々を増やすことが大事であり、地
味な活動ではあるが人とのコミュニケーションを取る方法としては
引き続き大事な活動だと思いますので時間の許す限りかわっ
て行きたいと思っています。

●今後のケーススタディに向けて

加藤博史

今回3月・5月に行われた調査を通して、「これまで表に出
てこなかったさまざまな問題」に気づかされました。限られた人
間関係のなかでひっそりと暮らしている人、家族はいてもその家
族との関係に問題があって家族内で孤立をしている人、高齢
者と障がいのある息子ともたれ合うように暮らしているケース、
精神的に問題のある子どもにわずかばかりの年金をたかられて
いるケース、などです。

そこで、今回さらに5つの事例を選び、5人の外国人福祉委
員によって個々の実情に、さらに深く踏み込んだ総合的研究を
試みることとなりました。目標として、①一人ひとりが抱えている
問題を多角的・総合的に把握する枠組み(フレームワーク)を
創り、②本人の現状理解に基づいてニーズを把握し、本人の生
活の質がより豊かになるための働きかけを具体的に行うこと。そ
して、③この働きを通して外国人福祉委員の活動強化および
技術向上を図りたいと考えています。具体的には、①自由度の
高い聞き取りシートを用いる。②本人の潜在能力や人生目標、
家族関係、社会参加関係、活用している社会資源、活用調整
が必要な社会制度・サービス・機関・近隣関係・連携マンパ
ワーを明らかにしていき、そこから「あるがままに生きること」、を
支援していきたいと考えています。

〒601-8007 京都市南区東九条北河原町5

京都外国人高齢者・障がい者生活支援ネットワーク「モア」

TEL075-681-2721

FAX075-681-2722

Email info@kyoto-more.net